

ふるさと応援課の取り組み

視察の目的

須恵町役場本庁舎から、須恵町オープンイノベーションセンターに事務所を移設した「ふるさと応援課」の業務について視察しました。同課では、ふるさと応援寄附金事業や在留外国人支援事業などを行っています。より深く学ぶために説明を受け、意見交換を行いました。



ふるさと応援寄附金の取り組みを聞く

ふるさと応援寄附金事業とは

稼ぐ町、安心して働ける町を目標に、新商品開発や販路拡大支援による町内事業者の収益向上に取り組みんでいます。6次化支援による町内農産物の付加価値向上などの事業者、生産者支援にも力を入れています。また、メディア等を活用した企業や町のプロモーションを実施し、持続可能な町の体制づくりを担っています。

オープンイノベーション戦略推進事業とは

「須恵町まち・ひと・しごと創生総合計画」に基づき、須恵町の強みを活かした、町内外の企業支援に取り組んでいます。外国人技能実習生の受け入れ、地域の事業継承課題の解決、中小企業・SDGsビジネス支援事業、「ゼロカーボンシティすえ」の推進のほか、企業と連携して、ボランティア事業の支援などを行っています。

在留外国人支援事業とは

須恵町には、約300人の外国人が暮らしています。その人々を含め、言語や文化の違いによる不便の解消や多文化共生を推進するために、外国人相談窓口の設置や役場庁舎内の手続きに関する書類および案内の通訳、日本語教室開設に向けた取り組みを行っています。また、災害時の避難所情報、国や県からの情報を翻訳し、ホームページやフェイスブックに掲載、更新しています。



シャフルボードでの交流

視察を終えて

須恵町は、ふるさと納税の寄附金により、稼ぐ町、安心して働ける町に近づいています。また、地域と企業との連携も進んでいます。これからも、新しい事業が待ち受けていると思いますが、ふるさと応援課の皆さん、須恵町のために頑張ってください。



ふるさと応援課の皆さんと

学力向上の取り組み

全国でも小中学校の学力が上位にある福井県の学力向上に向けた取り組みを学ぶため、視察を行いました。

令和4年10月31日（月）あわら市を視察

個性と自主性を大事に

あわら市では、地元を愛し、一人ひとりが夢と希望を持ち、個性が輝く教育を目指しています。子どもたちは、自分で決めたことをやり遂げる、失敗を恐れず挑戦する意識が高い傾向にあり、現在、生徒の自主性を生かし、宿題は自らの実力に合わせて問題を持ち帰る取り組みを構築しています。個性に気づかせ伸ばしていく「引き出す教育」、知的好奇心や探求心を持って自ら進んで「楽しむ教育」を推奨されています。

令和4年11月1日（火）福井市を視察

粘り強く学習に取り組む姿勢

福井市では、郷土に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成を教育目標としています。教師は全員が同じ方向を向き、一丸となって学力アップのために日々努力を重ねています。子どもたちの記述式の正解率は高く無回答率が低い、それは、あきらめずに粘り強く学習に取り組む姿勢が身につけている結果だと評価されています。教員研修においても、力量向上研修など教師自身が積極的に参加されています。

視察を終えて

あわら市と福井市では、課題もある中、家庭・地域・学校・行政が一体となって、育成・教育の取り組みに力を注がれています。両市とも三世帯世帯が多く、また、共働き世帯の割合も高いことで、家庭・地域の環境が子どもたちの学力アップの原点になっているようです。

須恵町は、人口が増え、核家族化が進んでいるため、家庭と学校の連携を密に行い、地域との関わりをさらに深めることで、子どもの育成、学力向上に繋がって行きたいと思っています。



あわら市



福井市